



復旧後 被災時▶
国道17号

国道17号の斜面崩落現場
(北魚沼郡川口町天納)
〔写真提供 / 北陸地方整備局〕



小千谷大橋
被災時▶
復旧後



国道17号小千谷大橋の橋脚損傷現場(小千谷市)
〔写真提供 / 北陸地方整備局〕

インタビュー Interview

流域全体を見つめ、緊急的に大規模な復旧に取り組む

豪雪などの困難な条件の中、着実に復興を図る

山口 真司氏 国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所長



2004年の新潟県中越地震では、震源地に近い芋川流域が特に大きな被害を受けた。道路や橋の損壊はもちろん、多くの河道閉塞が発生、新たな危険も生まれた。この地域の復旧に取り組む国土交通省・湯沢砂防事務所長の山口真司氏に伺った。

この地域の特徴は、

この地域は戦後、関越道や新幹線の開通によって首都圏との交流が盛んになり、活性化されていきました。魚沼産コシヒカリに代表される穀倉地帯としても知られています。1年のうち半年は雪に覆われる豪雪地帯であり、地質的にも崩れやすいという弱点を持っています。雪、梅雨、台風に地盤の弱さが加わって、防災対策上は困難な土地と言えるでしょう。

湯沢砂防事務所の役割は、

芋川流域は、湯沢砂防事務所の担当地域ではなかったのですが、新潟県中越地震によって流域全体が壊滅的な被害を受け、国の支援が必要となったため、当事務所が担当することになりました。国だからこそ可

能な、技術力を駆使した大規模かつ集中的な対策に取り組んでいます。

実際にはどのような対策なのでしょうか。

芋川流域は38.4km²ほどしかない地域ですが、1419箇所の崩壊、75箇所の地滑り、55箇所の河道閉塞がありました。

まず実行したのは、河道閉塞の改良、安定化です。緊急排水できるように工事を進めました。ダム湖が破堤したら、下流域に新たな被害が及ぶからです。

平成17年度の砂防事業においては、優先度の高いと判断された11箇所について砂防堰堤、護岸工などの建設・整備を進めています。

現在、監視カメラ4台で、常に流域の変化を見ながら着実に工事を進めています。

地域の方々への情報は、どのようにされていますか。

『芋川砂防かわら版』というニュースレターを作成、工事の進ちょく状況をお知らせしたり、現場説明会などを行っています。また、ホームページや警戒避難等に対する情報提供の支援を行っています。

今後の展望を教えてください。

国の業務として、流域全体を見て必要な施策を行うことが大切です。また、物理的な工事にとどまらず、常に地域としての復興を念頭に仕事をする必要があります。

旧山古志村の村民は2006年には故郷へ帰ることを目指しており、それを支援するために私たちも全力で計画を進めているところです。